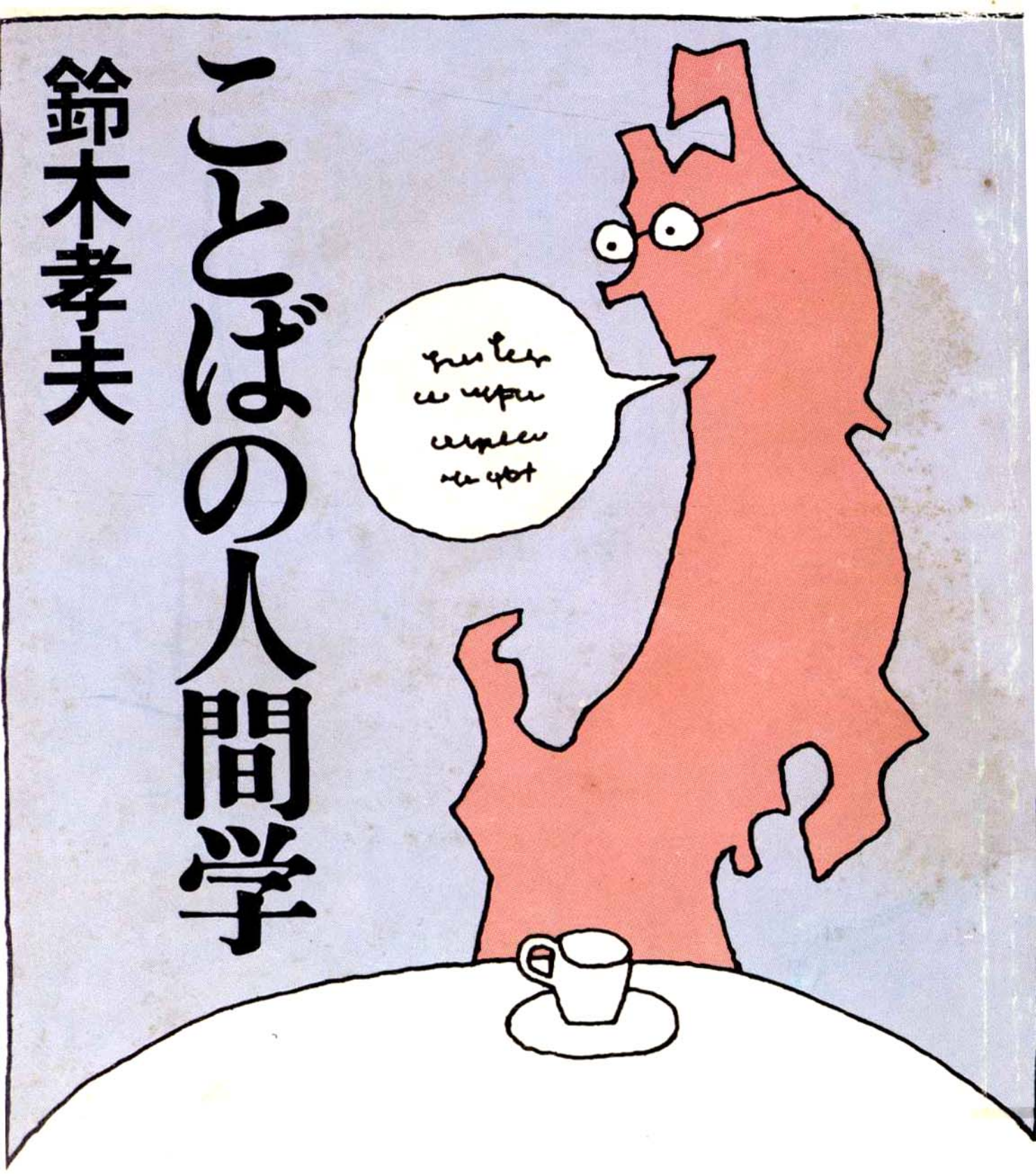
ことばの人間学

鈴木孝夫

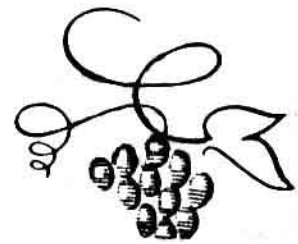


新潮文庫

新潮文庫

ことばの人間学

鈴木孝夫著



ことばの人間学（にんげんがく）

新潮文庫　　草256＝1

昭和五十六年十月二十五日　発行
昭和五十八年六月十五日　三刷

著者　鈴木孝夫（すずきたかお）

発行者　佐藤亮一

発行所　株式会社　新潮社

郵便番号　一六二
東京都新宿区矢来町七一
電話　業務部（〇三）二六六―五一一一
編集部（〇三）二六六―五四四〇
振替東京四―八〇八番

定価はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛ご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

㊙ 印刷・株式会社三秀舎　製本・加藤製本株式会社

© Takao Suzuki 1981 Printed in Japan

目次

I

外来語をめぐって……二

外来語の濫用に思う　命名の文化　漢語は外来語か

自己と他者……三

ひとりごとと二人称　対立と同化の心的構造　自己規準と他者規準

外から見た日本・内から見た日本　武器としての言語　日本語を国連公用語に

ことばの使い方……六

山かけ法の論理　言葉の使い方　ことばと文化　心がけ　〝騒音罪悪〟の教育確立を　日本は島国であるが、イギリスは島国ではない

日本語は民主的なことばである

Ⅱ
なぜ外国人に日本語を教えるのか……九九
日本語からみた日本人……一二五
英語教育の目的……一五三
マン・マシン・システムにおける日本語の考察……一七三
漢字のあまり知られていない特性について……一九三
Ⅲ
随　想（社会）……二一七
誰がモナリザを見たのか　受験地獄作る「結果の平等」　年賀状の年
内配達　危険な過失隠しの風潮　新幹線に安全ベルトを　赤字ローカル線対策　ゆっくり走らせよう　交通規制　忘れられた駐車対策
逃げ道がない　誰の仕事か　世代の断絶と崩壊

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

随　想（自然）……二五三
ゲー公のこと　庭・小鳥・ふるさと　幻の鳥　大学の庭で　オナガのこと　鳥の言葉　科学の進歩と自然界　オーストラリアの自然資源の再循環を　節約のすすめ　貴族の愉しみ
後　記……二九六

解説　泉　邦寿

ことばの人間学

I

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

外来語をめぐって

外来語の濫用に思う

ことばの問題に多少でも関心のある人なら誰でも気がついていることだが、最近日本人の言語生活における外来語の濫用には目に余るものがある。デパートの婦人服や化粧品売場などでは、訳のわからぬ仮名書きの英語やフランス語らしきものが氾濫し、テレビのコマーシャルでは次から次へと耳慣れぬ外来語がとび出して来る。若者向けのステレオ機材の宣伝広告をラジオで聞いていると、一体これで分かる人がいるのかと思うほどのカタカナ言葉の連続である。

これでは国語の乱れを憂い、日本語の純化を希う一部の識者たちが、外来語の使用を規制する何らかの措置が必要ではないかと主張するのも無理のないことに思えてくるほどである。

面白いことに外来語の洪水に悩まされているのは日本だけではなく、ヨーロッパに於てはフランスが同様の問題を抱えて苦しんでいる。最近の情報によると、フランス政府はこれ以上フランス人の日常生活が英語によって汚染されるのを防ぐため、去る一月四日の官報紙上で来る一九七七年一月以降、罰金を伴う法律で英語を追放するという計画を発表している。

第二次世界大戦以後、アメリカの圧倒的な軍事経済力の影響の下に立たされたフランスでは、数多くの英語の単語や表現が、そのままの形で広く一般大衆によって用いられるため、一部の国粋的な識者たちがフランス人は今やフランス語（フランセ）ではなく、英語（アングレ）との合の子フラングレを話すようになったと指摘するほどである。またパリを訪れる観光客の大部分が英語を話し、フランス人までが母国語に対する誇りを捨てて英語を使い出すことを苦々しく思った或る反骨の商店主が「当店ではフランス語が通じます」という貼書を出したなどという話も伝わってくるほどであった。

だが考えて見ると、人類の長い歴史のどの時期をとってみても、国と国との文化の交流が高まり貿易が盛んになると、それにつれて外来の事物・概念や新しく持込まれた商品などを示す元の国のことばが、同時に外来語として入ってくるのが常である。近代ヨーロッパ諸語の場合は勿論のこと、古代ギリシャ語や古典ラテン語の中にも、すでにさまざまな外来語が見出されることはよく知られている事実である。外来語を全く含まない「純粋な」言語などというものは、多少なりとも他民族や異文化との接触の経験を持つ国の場合には、先ず有り得ないと言ってよい。

日本語も古くは中国語から膨大な量の語彙を借用し、更にはサンスクリット（梵語）に由来するかなりの数のことばを、これまた中国語経由で取入れた。幕末明治以降に欧米諸語から日本語に入った外来語の中には、最早日本人の日常生活に欠くことができないものも決して少なくない。ポストやパンといったことばは、未だに仮名書きされるという点を除いて、一般の人々には外来のことばだという意識すらないと言えよう。

このようなわけで数多くの外来語が日本語に含まれ、私たちの日常生活の中で用いられているという事実は、それ自体では非難されるべきことでも、また嘆かわしいことでもないのである。それどころか外国のことばを、いつでも自由に取入れて使うことができるということは、むしろ日本語が活力に溢(あふ)れた柔軟きわまりない言語だという証拠であり、また日本人の生活が常に変化にとむ色彩ゆたかなものであったことを示すものと考えることができよう。

したがって、私はいま私たちの日常生活に見られるような外来語の氾濫を、フランスのように法律によって制限を加えたり規制したりするのは好ましくないと考えている。外来語の歴史を調べて見ればすぐ分かることだが、ある時代に誰でもが使い理解していたことばでも、社会的な必要がなくなるといつのまにか消え失せてしまうものが結構多いのである。たとえば支那事変中は子供でも知っていたトーチカ（コンクリートで固められた小型要塞(ようさい)を指すロシヤ語）やクリーク（中国の細い運河）などはもはや全く耳にしなくなったし、終戦直後シベリアから帰国する人が多かった頃はダモイ（ロシヤ語で家へという意味）ということばがよく使われ、歌謡曲の中にまで入りこんだものだが、今では姿を消してしまった。

一般的に言って長い間消滅もせず、淘汰(とうた)もされずに残る外来語は、何らかの意味で人々の要求に応える何ものかを持っていると考えるべきであろう。したがって巷(ちまた)にあふれる外来語を、耳障りだ、外国かぶれだと言って性急に退治しようとすることは正しくない。これはまた言論表現の自由を尊ぶ自由社会の建前から言っても慎むべきことである。

だが一般日常生活の中で、外来語が勝手に使用されることについては自由放任主義をとる私で

も、何らかの制限措置を講じる必要があるのではないかと考えている外来語の問題がある。それは政府、議会、官公庁など広く国民一般が公的に関与する場面での外来語の濫用である。

首相が国会答弁の中で国民のコンセンサスを得たいと言ったり、都知事が都民にシビル・ミニマムの確保を今後の目標としたいなどと発言するとき、国民の、都民のどれだけがこれらの外国語を直ちに理解するだろうか。近頃ふたたび問題化した防衛庁のシビリアン・コントロールも、文官優位あるいは文民統制でどうしていけないのだろうか。すべての階層の老若男女の日常生活に直接かかわる警察の交通関係用語にも不必要な外来語が多用されている。スクール・ゾーン、スクランブル交差点など、学校区域（地域）や混合交差点ならば誰にでも分かりやすい。一時方方の幹線道路にキープ・レフトと書いた立看板が並んだことがある。英語で左側通行を意味するキープ・レフトを左側通行しか許されない日本の道に何故（なぜ）立てるのか不審に思い警察に問い合せたところ、これは片側二車線ある場合に、左寄りを走行せよという指示だと分かった。元の英語を知っていてさえも正しく理解できないようなキープ・レフトの代わりに、「左車線を走れ」と何故書かないのだろうか。

今にして思えば、大幅な漢字制限を含む戦後の一連の国語改善政策の主眼点は国語の平易化にあったと言うことができる。一部特権階級のものだけが自由に使いこなせる難解な文字、表現を廃止し、すべての国民が理解し安心して使用できる民主的な言語に日本語を改造すること、これが漢字制限の思想だった。

難しい漢字は特別に教育を受けなければ読むことも書くこともできないが、仮名ならば誰にで

も分かると考えられたのである。たしかに日本語の仮名文字は良くできた音声記号であるため、読み書きに困難は殆どないが、文字が読める書けるということは必ずしも意味が分かるということを保証しない点が忘れられていた。そこで漢字を悪玉として嫌う思想と、日本人の新しもの好きの国民性があいまって仮名書き外来語の大洪水が起こり、結果は平易な国語どころか相当の教養ある人々にさえ理解できない日本語が溢れる始末となったのである。ところが一見やさしく見える仮名書きの外来語は見るからに難しい漢字語に比べて本当は遙(はる)かにタチの悪い性質を持っているのだ。それは分からない場合に調べる手段がないという点である。知識のない人にとって仮名書き外来語は、読むことはできても、どの国の言葉だか見当がつかない。たとえ何語だと分かっても、原語の綴りを仮名書きから割出すことは至難の業である。シビルから civil を見出すことは誰にでもできるわけでなく、ボールが ball を指すのか、それとも bowl のことなのかは外国語の専門家でないと分からない。

これに反し、難しい漢字は辞書を見る労力さえいとわなければ発音も意味も知ることができる。国民が理解できるかどうかという、国語の最も大切な点から見ると、漢字は口に苦い良薬であり、仮名書きの外来語は糖衣に包まれた毒薬にたとえることができると私が考える根拠はここにある。

これまで文部省、国立国語研究所などが漢字の問題についやした労力は莫大なものである。今年で十二期になる国語審議会も漢字の審議にどれほどの時間をかけたことであろう。だが見たところ易しい顔をしている外来語が、一般国民によってはたしてどれだけ理解されているかの調査研究は皆無と言ってよい。公的な言語生活における漢字の制限に熱中するのも良いが、未だ使用

の熟さない外来語の規制も考えなければ言語政策としては片手落ちであろう。どろぼうは玄関から侵入するものとばかり思い込んで、戸締りを厳重にしている間に、裏口を閉め忘れたようなもので、大切なものはどんどん持ち去られているのである。

先日ある新聞の投書欄に六十歳のお年寄が、近頃の新聞、テレビには分からない外国語が多過ぎて楽しめない。もっと外国語の知識のない人々のことを考えて欲しいという意見を寄せておられたが、大衆の味方、社会の公器をもって任ずる大新聞などは、外来語退治の実践に熱意を示してはどうだろう。

文部省、国立国語研究所なども公的な場面における外来語の使用実態とその理解度の研究調査に乗り出すべきであり、その結果をふまえて何らかの規制措置を講じる必要があると私は考えている。

繰返すが、私はかつてNHKが行った様な一般生活での外来語の理解度調査ではなく、国民が内容を理解する権利と義務のある公的な場面に対象を限った調査研究を提唱しているのである。

（昭和五十一年十一月・「文化庁月報」第98号）

命名の文化

太古の昔から或る地方ある国で、優れた道具や器物あるいは装飾品などが生まれると、それは

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com